

施策	82	三遠南信・中京圏の連携推進	政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり		
施策主管課	企画課	課長名	串原 一保	内線	2220	政策担当部長名	総合政策部長 今村和男
施策関係課名	学校教育課						
重点施策	○	関連計画	・リニア将来ビジョン、三遠南信地域連携ビジョン				

1 施策の目的

目的	対象	市民、行政
	意図	三遠南信、中京圏域と①共通の課題を認識する。②協力し補完しあう。

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
①	住民人口	人	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	101,743	100,957		
成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理											
①	三遠南信・中京圏との都市間交流に参加している市民の割合	%	9.2	9.1	10	9.2	9.1	10.5	8.9	15	○
②	三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	%	71.3	69.5	72.1	71.9	72.2	71.4	71.6	75	○
③											

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向	
行政	市(国・県)	○地域経営戦略として積極的に交流・連携する。 ○歴史・文化的に繋がり強い三遠南信・中京圏との交流・連携を市民に啓発する。	①三遠南信・中京圏で交流している自治体数	①	33	33	35	35	35	32	○
			②三遠南信・中京圏の情報発信数(三遠南信クチコミ情報発信回数・月間)								
			③三遠南信地域連携ビジョン推進のため、浜松、豊橋の両市との連携を中心に、三遠南信地域連携ビジョン推進会議の中で主体的な役割を担う	②	2	2	2	2	2	○	

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)							
市民等	市民(個人・事業者・各種団体)	○積極的に交流・連携する意識を持つ。	・三遠南信・中京圏と連携している市民の割合と、団体の数	<ul style="list-style-type: none"> ・住民レベルでの交流組織が、エリア案内冊子の作成などを行っている。 ・浜松、豊橋、飯田の三市の中学生が交流学習会を行っている。 ・地域の16団体で組織する「南信州交流の輪」が遠州、東三河地域の住民団体とネットワークをつくり交流している。 							

役割の発揮状況

後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・住民連携組織「南信州交流の輪」の運営に関わることで、南信州地域の住民団体活動を支援している。 ・三遠南信地域の住民団体連携組織である「三遠南信住民ネットワーク協議会」にオブザーバとして参加することで、三遠南信地域住民の交流促進を担っている。 ・「南信州交流の輪」は、事業案内をウェブサイト上に掲載するなど情報発信に努めており、三遠南信住民ネットワーク協議会では地域交流のイベントを事業として盛り込むなど、相互理解や地域間交流に向けての取り組みが徐々に見受けられるようになってきた。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の主体となるべき団体がまだまだ少なく、存在する団体も財政基盤が脆弱であったり、活動の主力が少数であったりするなどして、住民団体だけの自主自立的な取り組みとなっていない。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

<p>この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。</p>	<p>[三遠南信中学生交流事業] ・参加した中学生からは、良い交流ができたこと、交流の懸け橋になりたい、他県の友人ができた、この経験を今後活かしたいなど、肯定的意見がほとんどである。</p> <p>[南信州交流の輪] ・「伝統食や伝統芸能などの地域資源について学び地域の価値向上を図る」・「南信州ブランド」の積極的な情報発信により、地域の活性化を図る必要がある」など、一層の活動推進が必要との意見がある。</p>
<p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。</p>	<p>・三遠南信地域は、様々な主体が連携して地域の諸問題に対応していく取組を進めてきており、「地方創生」の時代における、越境地域政策の先進的な政策モデルとして注目されている。</p> <p>・大都市圏から地方都市の回帰に注目が集まる中で、リニア中央新幹線整備工事の着工・三遠南信自動車道の延伸・新東名高速道路の開通など、交通インフラの整備が推進されており、国内外からの時間距離の短縮が図られ、流動人口の増加が見込まれる。</p>

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価) (2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

- 成果指標である「三遠南信・中京圏との都市間交流に参加している市民の割合」と「三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合」は、目標は達成できていないが、ここ数年同程度の状況を維持している。
- 連携の中心となる三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)は、平成26年7月に新体制へ移行し、SENA公式ウェブサイトなどのITツールを用いた情報発信など、新たな取組を推進している。
- 「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に参画し、広域連携による産業振興の取組みが推進できている。
- これらを総合的に勘案し、全体として「ある程度進んだ」と評価する。

【事務事業群のテーマ別評価】

<他圏域との連携強化及び都市間交流の意義啓発・発信>

【三遠南信地域連携ビジョン推進事業】

- 平成29年4月から、上伊那北部4市町村の加入が予定されており、三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)の一層の拡大が図られる。
- 住民連携組織である三遠南信住民ネットワーク協議会にオブザーバとして加入している。
- SENAの体制においても、「道路」・「産業」・「安心安全」の事業部会を設置し、個々の構成員が主体的に重点事業に取り組むこととした。
- 三遠南信サミットやなどの開催により、地域内の様々な主体間の交流・連携の意義が発信され、内外へのアピールの機会となった。また、SENA公式ウェブサイトや三遠南信ロコミ情報などのITツールを用いた情報発信によって、交流人口増の促進を図った。
- 飯田下伊那地域の住民団体により、連携組織「南信州交流の輪」が設立され、地域活性化のため伝統食や伝統芸能などの地域資源を用いた事業化を図り、ウェブサイト上などで取組の情報発信を行った。また、三遠南信住民ネットワーク協議会においては、三遠南信地域内の交流イベントを事業化するなどの取組が行われた。
- 愛知県等が指定を受けている「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の区域拡大に飯田・下伊那地域も加わり、当地域への航空宇宙産業の集積を図った。(主には施策13「新しい力による新しい産業づくり」にて掲載)
- 中京圏については、岐阜市をはじめとした都市間交流に向けた取組を行っている。

【三遠南信中学生交流】

- 浜松、豊橋、飯田市の中学生合計約140人が参加し、三市持ち回りで開催している。各市の特徴を見学するとともに、テーマを設け意見交換を行っている。中学生段階から三遠南信地域を知り、交流を行うことにより、将来の地域連携を担う人材の育成を図ることができた。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

<他圏域との連携強化及び都市間交流の意義啓発・発信>

【三遠南信地域連携ビジョン推進事業】

- 三遠南信地域のさらなる連携強化を目指し、広域連合を含めた広域連携体制の強化や無形民俗文化財の「日本遺産」登録について具体的に検討を進める。
- 「南信州交流の輪」の取組を支援し、「祭り街道弁当」の事業化をめざすなど団体の独立性を高めるとともに、情報発信や交流機能の一層の強化を図る。
- 三遠南信及び中京圏への交流に主体的に取り組む団体の発掘・育成を図り、SENA体制における連携を促進する。
- 愛知県、岐阜県、三重県の各都市との交流や情報交換を通じ「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター」形成に資する取組を進める。
- リニア中央新幹線の開通を踏まえ、「中部国際空港」との連結や「昇龍道プロジェクト」への参画など、中京圏や三遠南信地域を一体化した取組の検討・推進を図っていく。
- 広域連携研究会に事務局として参加し、三遠南信地域の更なる連携強化にむけた事業の検討を進めていく。

【三遠南信中学生交流】

- 三遠南信中学生交流を継続し、将来の地域連携を見据えた人材の育成を図っていく。